

# 凸凹ライブラリアンの再チャレンジ！

---

「検索技術者検定」のこと・これからのこと

(株)紀伊國屋書店  
関西ライブラリーサービス部  
徳田恵里

# 自己紹介（大学まで）

---

1978.3 奈良県生まれ

2000.3 大阪芸術大学芸術学部文芸学科卒業

\*専攻は二つ

“小説創作”と“ドイツロマン主義における音楽と文学の連動”

在学中、親に「何か資格取らないと学費止めるよ！」と言われ、

しかたなく司書課程を履修。

→ 1年授業を受けてもNACISIS-CATのスペルが覚えられませんでした。

# 自己紹介（大学卒業後）

---

2000.4～ 公共図書館でアルバイトを始める

2002.9 大阪府立中央図書館 資料情報課 嘱託員

2006.4 財団法人 大阪国際児童文学館 司書

(2010.3 大阪府立国際児童文学館の廃館まで勤務)

2010.10 大阪府立中之島図書館 ビジネス支援課 嘱託員

2011.4 業務委託職員として大学図書館に勤務

…現在に至る

# 自己紹介（現在の仕事）

---

(株)紀伊國屋書店関西ライブラリーサービス部所属

大学図書館の業務委託の現場で働いています。

勤務先の図書館ではレファレンス・ガイダンス業務  
スタッフへの技術支援等を担当しています。

# 自己紹介（図書館系の検定等）

---

## 検索技術者検定

3級・2013年度    2級・2014年度    1級・2016年度

## IAAL大学図書館業務実務能力認定試験

総合目録－図書初級・図書中級・雑誌初級

情報サービス－文献提供

→ 4科目合格によりIAAL試験マイスター（シルバー）に認定

# 自己紹介（おまけ）

---



もう一つの顔は雅楽の  
楽人だったりします。

©(一社)雅楽寮日本雅友会

# 凸凹なのは

---

## 私のキャリア

有期雇用や勤務先廃止など、  
継続的にキャリアを積むことができませんでした。  
一つの組織に長く奉職してきた人間ではないし、  
年相応の職責を担ったこともありません。

## 私の能力

得意不得意の差が異常に大きいです。

# 今日は…

---

私人として、私的な体験をお話しします。

→これまで所属してきた機関・企業を代表するものではありません。

ですので、どうぞ気楽な感じでお聞きください。



# Chapter 1 検索技術者“以前”

---

# 大学卒業後

---

2000.4～ 公共図書館でアルバイトを始める

実は大学に研究生として籍を残していました。

図書館でアルバイトをしながら  
週に一回大学に通い、研究生論文を書く。  
そんな生活を続けていました。

# 最初の転機

---

2002.9 大阪府立中央図書館 資料情報課 嘱託員

ここで担当した業務は

「特別コレクション（洋書）の遡及作業」

18～20世紀初頭の洋書（英独仏伊蘭等欧米系言語）の資料を中心に取り扱いました。

3年半、洋書目録の経験を積んだことがその後の自分の大きな武器になりました。

# 専門図書館へ

---

## 2006.4 財団法人 大阪国際児童文学館 司書

大阪府の外郭団体のプロパー職員。

大阪府立国際児童文学館で目録業務・資料管理の他  
来館する研究者へのレファレンスも担当しました。

人生初の“常勤職”

最初にレファレンスデスクに座った日は  
さすがに緊張しました。

# 児童文学館でのレファレンス

---

大阪府立国際児童文学館は、

「日本で出版された児童文学に関する資料を網羅的に収集」



レファレンスは**自館の冊子体資料の調査が中心**  
商用データベース等の契約はありませんでした。

# 大阪府立国際児童文学館廃止

---

2010年3月 大阪府立国際児童文学館廃止・財団職員解雇

再び就職活動

→ 図書館関係の仕事

パートから正職員まで約30件、全敗。

一時期は図書館の仕事をやめようかと思いました。

財団の上司はじめ、様々な方から励ましていただき、半年後ようやく一つ仕事を見つけることができました。

# 未知の分野へ

---

2010.10 大阪府立中之島図書館 ビジネス支援課 嘱託員

主な業務は

- ・ ビジネス資料室でのレファレンス
- ・ 図書館協力室での相互利用

目録業務・児童文学からの大転換になりました。

# 二度目の転機

---

中之島図書館で“データベース”に出会った

「世の中にはこんなツールがあるのか！」と  
衝撃を受けました。

初めて見るデータベースはどれも大変興味深く、  
何時間触っても飽きませんでした。



## Chapter 2 再チャレンジは大学図書館

---

# “業務委託職員”になった

---

## 2011.4 大学図書館業務委託職員

はじめての大学図書館・はじめての民間企業。

それまで直接雇用の経験しかない私には、

業務委託の働き方は大きなカルチャーショックでした。

→ 上司も含め、チーム全員が同世代・年下という状況。

孫請けの立場で図書館で働く違和感。

委託という働き方に意識をうまくシフトできず、

遠距離通勤ということもあり、一年で異動。

# 総合大学のレファレンス担当へ

---

## 2012.4 吹田市内の大学図書館に社内異動

文系・理系含む多様な学部を有する総合大学の図書館に  
レファレンス業務の担当者として着任

- 今回は孫請けではなく、大学と会社は直接契約。  
チーム・業務内容共にうまくフィットし、  
安定したパフォーマンスが発揮できるようになりました。

# 異動してきて思ったこと

---

- ・ 業務委託の世界にも、図書館で長く働きたいと熱心に学ぶ人がたくさんいる。
- ・ 私のレファレンス調査についてみんな関心をもって質問してくれる。

でも私は、あまりにも自分の経験を頼みすぎていて彼らに的確に伝える言葉を持っていない。

# どうすれば伝えられる？

---

2013年のある日、同僚が「情報検索基礎能力試験」という試験を受けたことがあると言い出しました。

興味をもって調べてみると、

2級までなら自分でも何とかかなりそうな気がしました。

何より、**検索技術を体系的に学びなおすことで、**

**それを伝える言葉を獲得できるのではないかと考えました。**

# 2014年度、 2級は通ったけど…

---

会社が入札に負けてしまい、チームはバラバラに。  
検索技術やレファレンスを伝えるどころではなくなりました。

私自身も目標にしていた2級に合格したことにより、  
一旦検索技術者検定へのモチベーションは沈静しました。

## Chapter 3 めざせ1級！

---

# 新しいメンバーがやってきた

---

2015.4 (株) 紀伊國屋書店に入社 (勤務地は変わらず)

今回の役割はレファレンス係のサブリーダー。

スタッフへの技術支援も正式な業務になりました。

新チームには2級取得済みのスタッフも。



実は、そのスタッフが2015年度1級に合格しました。



# 図書館員でも「1級」になれる？

---

それまで私は、

「図書館員なら2級で充分」

「1級は企業の特許検索や知財の人が取るもんだろう」

そう考えていました。

しかし、目の前には合格者がいるという現実。

次第に「もしかすると、自分でも手が届くかも…」

という気持ちが芽生えてきました。

# 2016年度で合格するぞ！

---

ただだと、先延ばしにしても仕方ない。

**「今年、絶対1級に合格する！」**

2016年の春、それを目標に決めました。

自宅の古いPC (Windows XP)も買い替えて、

二次試験のプレゼンに備え、

パワーポイントが使える環境にしました。

# 試験対策はどうすれば？

---

1級はテキストがありません。

まずは試験の実態をつかむため、公開されている  
「合格者の声」を全部読んでみました。



結論： **とりあえず過去問から見てみよう。**

# 過去問を分析

---

過去問を見ていると、あることに気づきました。

①2014年から試験が変わった

1級前半は10問中4問を選ぶ方式に。

②出題傾向が変わった

音楽資料やアートドキュメントなど、  
従来よりも多様な分野が出題されるようになった。

→ 新試験で文系の司書にもチャンスが広がった！

# 私自身のアドバンテージ

---

## ① 多種多様なデータベース・参考図書が使える環境

勤務先が大規模図書館であるという利点

## ② 文章を書き上げるスピードが速い

1 級後半は論述試験。1 時間で1600～2000文字。

学生時代小説の習作などを大量に書いていたため、

「短い時間で長文を考え、まとめる」スキルがあった。

(手書きするのは苦手ですが…)

# 一次試験対策

---

一つだけ心掛けたことがあります。

## 「無理しないこと」

化学や特許など、付け焼き刃で通用するものではない。  
よくわからない分野に手を出すよりは、  
自分の知っている分野を補強する事に注力しました。

# 一次前半（選択問題）の対策

---

## 既存の知識を補強

職場で得意と公言している「法情報&ビジネス情報」

雑誌記事・新聞記事・古典籍など「一般的な資料」

普段は使わないが本来得意な「音楽・芸術学・児童文学」

これらを中心に、データベースや冊子体資料を見直しました。

（退勤後に参考図書のコナーをウロウロしてました）

# 一次前半（選択問題）の対策

---

## 意識したこと

- 資料名を略称ではなく正式名称で書けるようにする

ex. “SATA”ではなく『Something about the Author』

- 冊子体とデータベースを関連付けて覚える

ex. 『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』とデータベース『Web OYA-bunko』

- データベースは収録年代も覚える

ex. 産経新聞のデータベース『The Sankei Archives』は1992年9月7日以降を収録



# 一次後半（論述）の対策

---

## 各種の研究会に参加

- ・ IS-Forumの1級対策研究会
- ・ 情報科学技術協会の「じょいんと懇話会」

→ 去年の「じょいんと懇話会」は、谷口忠大氏による「人工知能」に関する話題でした。

## Chapter 4 試験本番（一次～二次）

---

# 一次試験・前半問題

---

前半はこんな問題（10問中4問選択）

[http://www.infosta.or.jp/shiken/2016\\_1zen.pdf](http://www.infosta.or.jp/shiken/2016_1zen.pdf)

→ 【1】・【2】・【9】は個人的にボーナス問題。

スムーズに解答できました。

最後の1問を【10】の英語にしようと思うも、

読解できずやむなく【3】の化学・特許問題を解答。

実は、この選択が後で大変なことになりました。

# 一次試験・後半問題

---

後半はこんな問題

[http://www.infosta.or.jp/shiken/2016\\_1kou.pdf](http://www.infosta.or.jp/shiken/2016_1kou.pdf)

- 正直、「AIキター(°▽°)ー!!!」と思いました。  
5年後の近未来の話なので、もうSFのノリです。  
チームマネージャーとして自分が、  
どのように後進を育成し、チームの舵を取っていくのか。  
という内容で、一気に既定の文字数を書きました。

# 一次を終えて

---

前半で選んだ【3】の化学・特許問題の  
出来の悪さが気になっていました。

また【9】の専門図書館も、出題者が想定する機関と、  
私が書いた「児童文学館」とのギャップが不安でした。

→ 不安に感じながらお正月を過ごし、  
忘れたころ（1月中旬）に「一次合格」の通知が！

# 二次試験ってどんなの？

---

プレゼンテーションと面接ということですが、  
あまりに情報が無いので、1級の同僚に確認しました。

分かったこと

- ・ 部屋に入ったら、まずはすぐにプレゼンをする。
- ・ その後試験官からいろいろ質問される。
- ・ 一次試験の解答についても突っ込まれる。  
→ 問題の解きなおしは必須（一次の解答内容も把握）。

# 二次のプレゼン作成中

---

詳しくは言えませんが、**仕事上で大きな失敗をしました。**

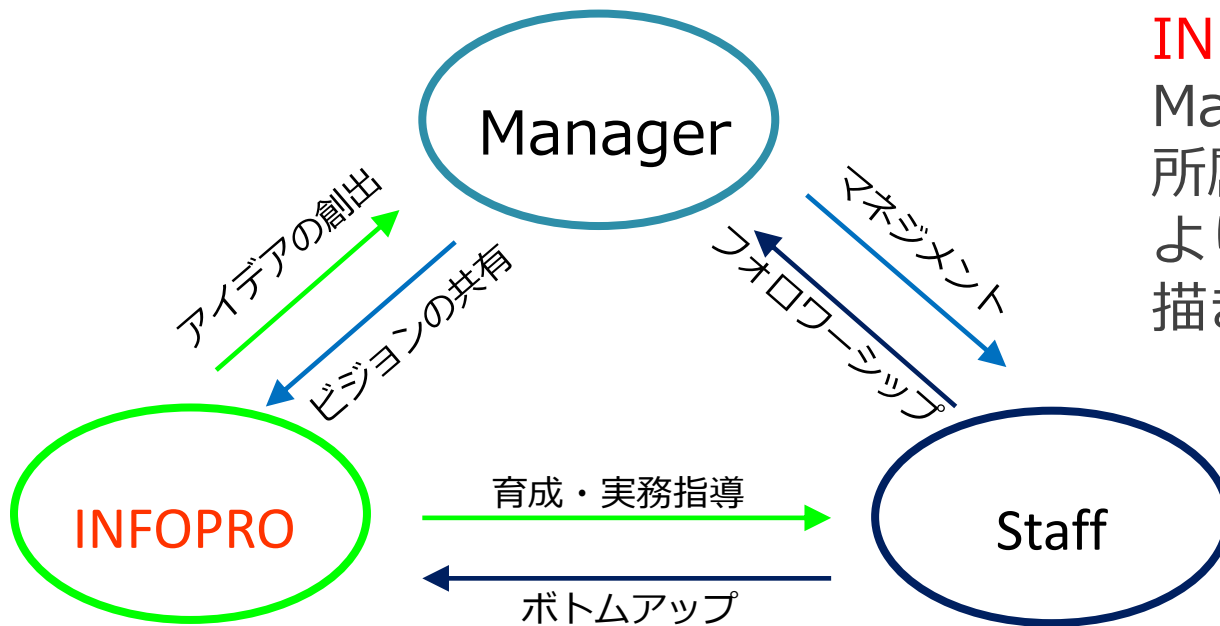
「部門間調整」など、マネジメントにかかわる問題で、  
多くの人に迷惑をかけ、また信頼も失いました。

そんな自分が“マネージャーであること”を想定した  
プレゼンなんかとてもしる気になれない。

半ばヤケになった私は、

**一次の論述とは全く違う内容のプレゼン**を作りました。

# 作り上げたプレゼンは



INFOPROである私とManagerを切り離し、所属チームの現状により近い形の働き方を描きました。



# 二次試験

---

新幹線に乗って、文京区まで行きました。

- ・プレゼンは6分をオーバーして7分くらいになりました。
- ・何故かあまりプレゼンに関する質問は受けませんでした。

# 二次試験

---

前半試験の【3】の解答が集中砲火になりました。

試験官：SciFinderを使うと解答されてますが、STNならどうします？

私：本学はSTN契約しておりませんので…（この質問想定してなかった！）

試験官：使えると仮定してどうしますか？

私：ううっ…。

こんな調子で一番できの悪かった問題に質問が集中しました。

実は他の問題については殆ど触れられませんでした。

# 二次試験

---

最後に「1級合格したらどう働きたいですか？」と聞かれ

「合格証をもらった瞬間に何かが変わるわけではない。

これはあくまで通過点であり、取ったからどうとは考えていない。

これから先の何十年、どんな仕事ができるのか。そちらが大事。

いつか、“1級検索技術者”の名前に恥じない、

この資格の価値を上げられるような人物になりたい」

という趣旨のことを、精一杯の気持ちで言いました。

## Chapter 5 合格、そしてこれからのこと

---

# 1 級合格！

---

「これはあくまで通過点」  
試験でそう言い放ったものの、合格通知が来たときは、  
やっぱり嬉しかったです。

# 受験して良かったこと

---

- ・ 知識の整理ができた
- ・ 自分のライブラリアンとしてのマインドについて、深く考えることができた。
- ・ 時に現実とリンクし、内容が変化しながらも、自分の考えをプレゼンで形にすることができた。

# そして何が変わったか？

---

職場では特に何も変わっていません。  
従来通りの仕事をしています。

マネジメント業務で失敗した分、  
ある意味では去年より「後退した」のかもしれない。

相変わらず、理想と現実の自分とのギャップに  
葛藤する毎日です。

# それ以外では

---

ちょっとだけ変化がありました。

①IS-Forum幹事・INFOMATES運営委員

こういった役にお誘いいただきました。

②INFOMATESから講師の依頼をいただきました。

\*こんな機会がやってくるとは思わず、めちゃくちゃびっくりしました…。



# これから仕事で何をを目指す？

---

大きな失敗をしてつまずいた。

それでもいつかはマネジメント業務に再チャレンジしたい。



常勤職から業務委託のスタッフになって、

一番辛かったのは「手に入る情報量の少なさ」。

いずれは評価・信頼を取り戻し、一つでも上のポジションで、

“多くの情報をもって、組織に最良の方針を策定できる人間”

を目指したい。

# インフォプロとしての活動

---

合格者の声にライフワークを書かせていただきました。

“安定した雇用でOJTを積むのが難しい今の図書館界において、次の世代のライブラリアンをどう育てていくのかという問題に、微力ながら貢献できればと思っています。”

今日話題提供をさせていただいたことも、  
各研究会の幹事・運営委員をお受けしたのも、  
すべてはこの活動の一環ととらえています。

# さらにこの先

---

私のライフワークをどうすれば実現できるのか。  
普段の仕事はもちろんのこと、  
さまざまな研究会でも先輩諸氏に学びながら、  
将来のことを考えていきたい。  
今はその準備段階にいるのだと思います。

# 夢や志を持つことは

---

私のように未熟な人間が、大きな夢や志を持つことは  
本当は、メチャクチャ苦しいです。

毎日が“ダメな自分・できない自分”との闘いです。

それでもこの18年、

「ライブラリアンとして少しでも長く、いい仕事がしたい」  
ただその思いだけで突っ走ってきました。

この苦しさも、今は自分の一部のように思えています。

# あなたにもできる

---

これまでお話ししてきたように、  
私は凸凹なキャリアと凸凹な能力を持つただの人です。  
しょっちゅうミスするし、いろんなことにつまづいています。  
でもライブラリアンであることを諦めずに、  
いくつかのきっかけをつかめたおかげで、  
この結果を出すことができました。

今よりほんの少しだけ頑張ってみようと思えたら、  
きっとあなたにもできるはずです。



ご清聴  
ありがとう  
ございました